

ナンバリングコード BIIAR-baxG-10-Lf1 授業科目名 (時間割コード:001101) メディアとなるもの What is the Medium? メディアとなるもの What is the Medium?	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 大村 隆史, 柴田 悠基	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業 90分×7回 + フィールドワーク 90分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 <p>すぐれた書物等は、今まで知らなかったものの見方や、新しい世界を私たちに示してくれます。この時の驚きや感激が学問の原点です。この授業では、そのような経験をし、学問的見方のおもしろさの一端に触れ、読むことによる探求になじむことを目的としています。</p> <p>この授業は、「メディアとなるもの」をテーマとします。地図、芸術祭、民藝と関係する書物等を読み解くことを通じて、「メディアとなるもの」の新たな魅力を皆さんと一緒に探っていきます。</p>			
授業の目的 <p>人文・社会科学に関わる書物等やその背景となっている学問と出会い、それらが提示する知的世界の広がりや深さに触れると共に、いくつかの学問的なものの見方やアプローチの仕方を理解する。また、それらの経験を通して、知的読書を習慣とするきっかけをつかむ。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 改めて書物等と出会い、その経験について述べるができる。 書物等の読解を通じて、様々なものの見方、探求の仕方を学び、実際にそれらを活用できるようになる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 知的読書を習慣とするための第一歩として、課題図書を通読し、それについて自分の考えをまとめることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 授業への取組60% (到達目標1と2に対応)、課題図書レポート40% (到達目標1と2と3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション (小坂有資、大村隆史、柴田悠基) 第2回 メディアとなるもの①: メディアを取り巻く議論 (柴田悠基) 第3回 メディアとなるもの②: 書物と地図 (柴田悠基) 第4回 芸術祭と地域社会①: 「メディア」としての芸術祭 (小坂有資) 第5回 芸術祭と地域社会②: 「メディア」としてのアートボランティア (小坂有資) 第6回 民藝とは何か①: 「メディア」としての民藝 (大村隆史) 第7回 民藝とは何か②: 民藝の現在地 (大村隆史) 第8回 栗林公園でのフィールドワーク (小坂有資、大村隆史、柴田悠基)			
【授業及び学習の方法】 第1回のオリエンテーションの後、1人の教員が2回ずつ授業を担当します。これらの授業で学んだ知識を活用して、第8回では栗林公園でフィールドワークを実施します。また、この授業は8回で完結するものではなく、授業終了後から8月31日までの間に、フィールドワークの振り返りを行い、課題図書を1冊以上読み、それについてのレポートを提出する必要があります。希望すれば、レポートに対して教員からのコメントをもらうことができます。			

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 事後学習として、授業に関するアンケートに回答し、最近読んだ本に関する小レポートを提出する（1時間）

第2回 準備学習として事前課題に取り組み身の回りのメディアについての考えを深め、事後学習として授業に関する小レポートを提出する（3時間）

第3回 準備学習として小課題に取り組み、事後学習として授業に関する小レポートを提出する（3時間）

第4回 準備学習として教員が提示した芸術祭に関する文献やウェブサイト等を読み、事後学習として授業に関する小レポートを提出する（3時間）

第5回 準備学習として教員が提示したアートボランティアに関する文献やウェブサイト等を読み、事後学習として授業に関する小レポートを提出する（3時間）

第6回 準備学習として中央図書館に所蔵された「民芸」「手仕事」に関する文献にアクセスし、事後学習として授業内容で扱われた用語や概念に関する理解度について小レポートを提出する（3時間）

第7回 準備学習として前回授業の学習内容を振り返り、用語や概念を簡単に整理し、事後学習として授業への参加を通じて得られた学びについて小レポートを提出する（3時間）

第8回 準備学習として栗林公園について文献やウェブサイト等で調べ、事後学習としてフィールドワークの振り返りに関する小レポートを提出する（3時間）

課題図書レポート 課題図書を1冊以上読み、教員が提示した課題についてのレポートを作成する（8時間）

教科書・参考書等

教員が授業中に書物を紹介します。紹介図書の内容については、リーディングリストに掲載されます。利用の仕方については、『修学案内』に掲載されているリーディングリストの説明を参考にしてください。

オフィスアワー 全般的な点については、コーディネーターの小坂（時間：水曜日12:00～14:00、場所：幸町北キャンパス5号館5階）まで。

個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【授業全体について】

複数教員によるリレー形式の授業で、全教員の授業に出席することが評価の前提となります。

課題図書は図書館に配架されていますが、数に限りがあるので、自分が利用したいときに、借りられている場合もあります。その際は、自分で書籍を購入する必要があります。

課題図書レポートの提出期限を夏季休業期間に設定するため、成績評価は第3クォーターの成績評価と同時期になります。

受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。

【第8回の栗林公園でのフィールドワークについて】

フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（略称：「学研災」）」と「学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）」に加入してください。加入の方法などについては初回のオリエンテーションでも説明します。

新型コロナウイルス感染症対策について授業等で説明するので、それらの対策を講じたうえで、フィールドワークに参加してください。

新型コロナウイルス感染症などの影響により、フィールドワークができなくなる場合もあります。その場合は、第8回の授業内容を変更する可能性があります。

学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。

ナンバリングコード BIIAR-baxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001102) 本との出会いで広がる世界 The world spreads through Readings 本との出会いで広がる世界 The world spreads through Readings	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 2Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局: 大教センター DPコード: bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 蝶 慎一	関連授業科目 学問基礎科目全般 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 大学生になると学問的な書物を「読むこと」が多くなります。高校までの「読むこと」という行為を振り返りながら、習慣的に「読むこと」で大きく広がる世界や学問的な見方、基本的な視点を理解し、具体的に「読む」きっかけを創る時間とします。			
授業の目的 大学生として書物の面白さや多様な体系的知の世界を理解するために、著者(書き手)と読者(読み手)の双方の立場、視点から学問的な書物を主体的かつ批判的に「読むこと」ができるようになる。			
到達目標			
1. 大学生の読書離れの実態や近年急速に普及している電子書籍の動向を理解し、具体的に説明できる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 「読むこと」を習慣にするきっかけを見つけるとともに、著者の主張を正しく見つけ、その主張に至る論拠や理由、議論のプロセスを具体的に討議できる(共通スタンダード「a 問題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自身が関心のあるテーマやトピックについて、学問的な書物を習慣的かつ批判的に「読むこと」で学部専門課程を進んでいく際に必要な学問的基礎を身に付けることができる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 ・授業中のグループ・ディスカッションへの取組、各週の「ふり返しシート」 70%(到達目標の1及び2.に対応) ・最終レポート 30%(到達目標の2.及び3.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション ―「読むこと」とは何か 第2週 大学生をめぐる「読むこと」の実態と課題 第3週 学問的な書物との出会いと面白さ 第4週 著者(書き手)の視点・立場から「読むこと」 第5週 読者(読み手)の視点・立場から「読むこと」 第6週 批判的に「読むこと」の具体的な方法と実践 第7週 書評(ブックレビュー)を「読むこと」 第8週 まとめ			
【授業及び学習の方法】 この授業は、講義をはじめ、受講生どうしのグループ・ディスカッションの活動で構成されます。特に、ディスカッションを通じて受講生どうしの議論や新たな気づきを積極的に促進します。また、授業内で様々な書物を紹介しますので、興味があれば是非主体的に「読む」ようにして下さい。			
【自学自習のためのアドバイス】 自身が関心のあるテーマやトピックについて、①最近5年以内の学問的な書物を大学図書館などで入手し(5時間)、②それらの書物の内容を簡潔に要約し(20時間)、③著者の主張(結論)の面白い箇所や今後読む			

でみたい書物についての情報を文章で説明してください(5時間)。その際に、香川大学大学教育基盤センターの「リーディングリスト」なども活用してください。なお、この自学自習は、授業における最終レポートの作成準備にもなります。

教科書・参考書等

教科書：特にありません。

参考文献：苅谷剛彦『知的複眼思考法 一誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社、2002年。

鈴木哲也『学術書を読む』京都大学学術出版会、2020年。

河野哲也『問う方法・考える方法 「探求型の学習」のために』筑摩書房(ちくまプリマー新書372)、2021年。

沼野充義「言葉の豊かさと複雑さに向き合う」東京大学文学部広報委員会編『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』集英社(集英社新書1024B)2020年、65-115頁。

香川大学大学教育基盤センター「リーディングリスト」。

世界思想社「学ぶ人のために シリーズ」「書籍検索」(ウェブリソース)。

オフィスアワー 基本的には、火曜日3校時、研究室は、北キャンパス5号館4階です。詳細は、担当教員に相談して下さい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各週に出席確認を兼ねて「ふり返しシート」を書いてもらいます。前提となる知識は特に不要です。高校までの「読むこと」と大学からの「読むこと」の相違点をあらためて一緒に考えてみましょう。

ナンバリングコード BIIAR-bacG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001201) やってみる科学 Hands-on science やってみる科学 Hands-on science	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 2Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局:大教センター DPコード:bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 野村 美加, 高橋 尚志, 鶴町 徳昭, 野々村 敦子, 山中 稔, 杉野本 勇氣	関連授業科目 自然科学基礎実験		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習(準備学習7.5時間+事後学習22.5時間)			
授業の概要 わたしたちの回りには、光や空気、水、冷蔵庫や果物、野菜、塩や砂糖などの調味料、何気ない数字のあつまり、地域のまちかど、商店街の売り上げや水田の風景、空や海や山のかたち、島々などの身近なものにあふれています。これらはみんな大学での学問の対象です。そこからは、みずからの「科学ごころ」を働かせることによって、多様な気づきを得ることができます。大学での学びの源泉はそこにあるのです。いろいろな学部や分野の教員が、それぞれの専門研究に近いところから、「やってみる」ことによって得られる気づきの機会を提供します。授業を通じて教室や学内外、自宅等で、科学的実験や数理解析・調査等をやってみます。個人実験も行い結果をレポートにまとめてみましょう。			
授業の目的 巨大な実験装置はなくとも、周囲に身近にあるものや事柄を対象にした学問的アプローチや科学的実験ができるようになること、更にそこから思索を深めることによって、身近な対象から新しい気づきを得られるようになります。また、実践した学問的・科学的アプローチについて、その背景、結果得られた事実、その結果から考えられる結論を客観的に説明し表現し、交流する楽しさを味わいます。これらの活動を通じて興味関心を育て、文系・理系を問わず、大学における自らの学問の対象となる分野を更に広げます。			
到達目標			
1. 多様な対象への学問的・科学的アプローチから、新たな気づきや学問的問いにつなげていくことができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 学問的・科学的実践の結果からの気づきや問いを客観的に表現できるようになる(共通教育スタンダードの共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 大学における自らの幅広い学びを計画することができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回の質問タイムに口頭で、あるいはそのあとmoodle等に質問・コメントをすること。よい質問は加点する。教員から出されるワークシートに基づく採点(到達目標1に対応)。10点×6回。 期末レポートは以下の2題。 (1) 授業でヒントを得て、あるいは独自アイデアで「やってみた科学」についてレポートにまとめる。行ったことと結果からわかることを客観的に記述し、気づきを表現すること。(到達目標2に対応)(30点) (2) この授業を経て広がった大学での学びの抱負をまとめる(到達目標3に対応)。(10点)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画(予定)】 授業の進行状況や進め方の工夫等により、授業計画を修正する場合があります。 第1週 インTRODクシヨン、「みんなの気づきを地図上で可視化する科学」(担当:野々村敦子) 第2週 「ストロートンボ・ペーパーシード」(担当:高橋尚志) 第3週 「雲をつくり気候変動を考える科学」(担当:寺尾 徹) 第4週 「公園の砂場でみる摩擦の科学」(担当:山中 稔)			

- 第5週 「光と色～光と物質の相互作用の科学」 (担当：鶴町徳昭)
第6週 「天然パン酵母を培養してみる科学」 (担当：野村美加)
第7週 「計算からパターンを抽象化する科学」 (担当：杉野本勇氣)
第8週 まとめとレポート課題の解説

【授業および学習の方法】

・授業は講義形式（パワーポイント資料、冊子類を中心）を基本しますが、受講生の意見をまとめるためのワークシートを使う場合もあります。意見に基づいて意見発表ができる機会を適宜つくり、できる限り「双方向の授業」となるように務めます。なお、授業中に、授業を活性化させる等の発言・質問を行った場合、教員の判断で加点する場合があります。

【自習学習のためのアドバイス】

・各回の授業の前にmoodle上等の資料やテーマに関する予習をしておくこと当日スムーズです（1時間程度）。
・授業で紹介されたものごとを、実際に自分でやってみることを大切にしています。レポート等を含め、3時間程度計画的に取り組もう。
・各回の授業における講師の問いにこたえて自分なりの発見にもとづくレポートを書くこと。
・授業期間のうちに自分なりの「科学的な実験」を実践して自分なりに楽しんでみよう。みんなにも紹介をする機会を設ける予定です。その結果を客観的なレポートにまとめてみよう。
・安全に関する注意事項については守るようにしてください。

【授業形態について】

この科目は全回対面授業を行います。

教科書・参考書等

- ・特にありません。
- ・適宜資料・プリントを配布します。

オフィスアワー 授業終了後、教室において
主担当教員：terao.toru@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
・家で実験をするために必要な機材を貸与したり、配布したりする場合があります。大切に扱い、期限までに必ず所定の方法で返却をしてください。この点が守れない場合は成績に反映することもあります。
・教員からの安全上の注意はしっかり守ること。学外での行動の際には、安全上、法的、倫理的に問題がある行動等は厳に慎むこと。

教員の実務経験との関連

特に該当しません。

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Eg1 授業科目名 (時間割コード:001202) 教育の“これまで”と“これから”を考える Past and future of education 教育の“これまで”と“これから”を考える Past and future of education	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 岡田 涼, 小方 朋子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 演習90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 この授業は、自分のこれまでに受けてきた教育の経験をもとにしながら、教育に関連する研究の視点をもつことを目的としています。幼少期から現在までに受けてきたさまざまな経験をもとに、疑問を感じたこと、課題だと感じることを掘り下げて問いを立て、自ら解決策を考えます。グループで話し合いながら、問いを立て解決策を考え、人に伝えるという研究の一連の流れを経験します。授業のなかでは、グループでの議論や大学教員の研究室の訪問など、自ら他者とかがわることが求められます。			
授業の目的 大学における研究の一連の過程を経験し、その初歩的な力を身に付けることを目指す。そのために、自身の経験をもとに教育に関する問題とその解決策を考え、プレゼンテーションを行う。			
到達目標			
1. 自身の教育経験から問いを立てることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 立てた問いについて、専門的な知識を有する他者からヒントを得て、解決策を考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 考えた解決策について、うまく他者に伝えることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 グループ発表50% (到達目標1、2、3に対応)、最終レポート50% (特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: オリエンテーション (授業説明、グループ分け、テーマのアイデア出し) 第2回: テーマの設定 (アイデア出し、グループでの決定) 第3回: テーマの決定 (問いの設定、探求の計画) 第4回: 教員訪問① (教員の専門を調べる、アポ取り) 第5回: 教員訪問②+プレゼン準備① (訪問、解決策のまとめ) 第6回: プレゼン準備② (ポスター作成、発表準備) 第7回: 学生プレゼン① (発表) 第8回: 学生プレゼン② (発表、まとめ)			
【授業及び学習の方法】 ・授業は基本的にグループでの演習形式です。 ・グループで1つのプレゼン完成を目指します。 ・活動の流れは、①問いを立てる、②教員を訪問してヒントをもらう、③解決策を考える、④プレゼンする、です。 ・教員訪問については、自分でアポイントメントを取り、第3回の授業終了時から第6回開始時までの間で行います (授業時間外も含みます)。 ・プレゼンはポスター発表形式で行います。			

・この授業は対面で行います。

【自学自習のためのアドバイス】

・自分の経験から問いを立てるために、教育に関する書籍や新聞に触れておく。
・問いについて解決策を得るために、教員のアドバイスに加えて、グループで手分けして、関連する書籍を調べる。

・プレゼンの準備のために、パワーポイントの作成方法について、書籍やwebページで調べる。

・その他、授業時間内外に担当教員に相談する。

第1回：事前に教育に関して興味のあるトピックを挙げておき、授業後にグループメンバーと意見交換を行う。（4時間（事前2時間+事後2時間×1回=4時間）

第2～3回：事前に研究テーマについて独自に調べ、授業後に議論を踏まえて情報検索を進める。（4時間（事前2時間+事後2時間×2回=8時間）

第4～5回：事前に研究テーマについて質問事項をまとめておき、授業後に教員訪問から得られた情報をもとにグループメンバーと意見交換を行う。（4時間（事前2時間+事後2時間×2回=8時間）

第6回：事前にプレゼン準備を行い、授業後に議論を踏まえて改善する。（4時間（事前2時間+事後2時間×1回=4時間）

第7～8回：事前にプレゼン準備を行い、授業後に議論を踏まえてまとめレポートを作成する。（4時間（事前2時間+事後2時間×2回=8時間）

教科書・参考書等

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

オフィスアワー メールで事前に連絡してもらった方がスムーズです。

岡田：金曜日1限目、8号館6階

小方（朋）：月曜日3限目、8号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・グループでの演習のため、出席を重視します。
- ・この授業では、自分たちで動いて学ぶことを重視します。
- ・教育に関する内容ですが、教育学部以外の学生にも積極的に受講してもらいたいと思っています。

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001301) 越境する学問 イ Crossing disciplinary boundaries 越境する学問 イ Crossing disciplinary boundaries	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 佐藤 慶太, 倉野 晴代, 岡田 徹太郎, 石井 知彦, 舟橋 正浩, 横平 政直, 鶴町 徳昭	関連授業科目 学問基礎科目・主題科目全般		
	履修推奨科目 この授業で新たに魅力を感じた分野の科目		
学習時間 講義90分×7 + 講義45分×1 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?大学の学びは現代という時代、学生一人一人にとってどのような意味があるのだろうか?なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?—こういった問いを自分なりに立てて、自分の学びに関係づけることができれば、大学での学びはきっと意義深いものになります。この授業では、分野の違う複数の教員が、受講生が関心をもつテーマを軸に、それぞれの学問の魅力、大学での学びの意義について語り(あい)ます。それを聞き、時に参加しながら、大学での学びの構えを身につける入門科目です。			
授業の目的 人文・社会・自然科学における学問的な視点やアプローチの仕方を学び、現実社会や一人一人の人生の諸問題に対する各学問の意義を理解する。それとともに、教員の与える正解に到達することを目的とする「勉強」から、時代や人生の中で自ら目的を定め、探求する「研究」へと、学びの構えを転換するきっかけをつかむ。それらを通して、大学における学びを自分でプロデュースできるようになる。			
到達目標			
① 各授業で示される学問的な視点やアプローチの仕方を理解し、それを自分の関心に結び付けて説明することができる。 ② 各授業内容について積極的に考え、疑問点を見出し、それを言葉で表現することができる。 ③ この授業を踏まえ、広い視野のもとで今後の学びのプランを立てることができる。 ①②③すべて、共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
成績評価の方法と基準 ・各授業の内容についての振り返りレポート、授業中に行う活動 80% (①②に対応) ・今後の学びのプラン 20% (③に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 各講義の内容と担当者 第1週 イントロダクション・教員自己紹介・共通テーマの提示 (45分) 第2週 化学の話 (石井・舟橋) + 教員、学生からのコメント・質問 第3週 経済学の話 (岡田) + 教員、学生からのコメント・質問 第4週 医学の話 (横平) + 教員、学生からのコメント・質問 第5週 哲学の話 (佐藤) + 教員、学生からのコメント・質問 第6週 物理学の話 (鶴町) + 教員、学生からのコメント・質問 第7週 教育学の話 (倉野) + 教員、学生からのコメント・質問 第8週 全体ディスカッション・まとめ			
【授業及び学習の方法】			

第1週にこの授業のテーマを設定します。その後、7人の教員がリレー形式で授業を担当します。毎回の授業では、メインの教員が自分の学問分野および授業のテーマについて話した後、他の教員、学生との対話が行われます。授業時間内に課題が設定されることもあるので、積極的に取り組んでください。また各回の終了後に、受講生には振り返りのレポート（評価対象）が課されますので、ノートを取りながら参加するとよいでしょう。第8週は担当教員があつまって振り返りのディスカッションを行います。学生も参加できるような仕組みにしますので、積極的に取り組んでください。

この授業では、口頭あるいは文字を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。

【自学自習のためのアドバイス】

- ① 授業での新しい発見をとりまとめ、ノートし、レポートとして提出する（事後学習）
- ② 次回取り扱われる学問分野について、教員のアドバイスに基づいて事前に調べてくる（事前学習）
- ③ 今後の学びのプランを練る（授業開始から考え始め、授業終了時に完成させる）

・詳細については第一週の授業で説明します。
・①②③をあわせて、授業期間中に30時間相当の作業。作業には個人差があるので、この時間数が必須というわけではありません。

【授業形態】

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

購入してもらおう教科書はありません。参考書については各授業で紹介します。

オフィスアワー 全般的な点については、コーディネーターの佐藤まで（オフィスアワー：木曜日3校時、研究室は幸町北キャンパス5号館5階）。個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・この授業は1回生をターゲットとした科目です。
・定員は100名です。
・この授業では、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。
・いろいろな学問分野が取り扱われますが、前提となる知識は不要です。関心があることが受講資格です。「大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?」「大学の学びは自分にとってどのような意味があるか?」「なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?」そういった疑問をもったみなさん、ぜひ受講してください!

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001302) 越境する学問 ロ Crossing disciplinary boundaries 越境する学問 ロ Crossing disciplinary boundaries	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q木1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 :大教センター DPコード :bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 蝶 慎一, 三宅 岳史, 松岡 久美, 野村 美加, 寺尾 徹, 高橋 尚志	関連授業科目 学問基礎科目・主題科目全般		
	履修推奨科目 この授業で新たに魅力を感じた分野の科目		
学習時間 講義90分×7+講義45分×1+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?大学の学びは現代という時代、学生一人一人にとってどのような意味があるのだろうか?なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?—こういった問いを自分なりに立てて、自分の学びに関係づけることができれば、大学での学びはきっと意義深いものになります。この授業では、分野の違う複数の教員が、受講生が関心をもつテーマを軸に、それぞれの学問の魅力、大学での学びの意義について語り(あい)ます。それを聞き、時に参加しながら、大学での学びの構えを身につける入門科目です。			
授業の目的 人文・社会・自然科学における学問的な視点やアプローチの仕方を学び、現実社会や一人一人の人生の諸問題に対する各学問の意義を理解する。それとともに、教員の与える正解に到達することを目的とする「勉強」から、時代や人生の中で自ら目的を定め、探求する「研究」へと、学びの構えを転換するきっかけをつかむ。それらを通して、大学における学びを自分でプロデュースできるようになる。			
到達目標			
① 各授業で示される学問的な視点やアプローチの仕方を理解し、それを自分の関心に結び付けて説明することができる。 ② 各授業内容について積極的に考え、疑問点を見出し、それを言葉で表現することができる。 ③ この授業を踏まえ、広い視野のもとで今後の学びのプランを立てることができる。 ①②③すべて、共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
成績評価の方法と基準 ・各授業の内容についての振り返りレポート、授業中に行う活動 80% (到達目標①②に対応) ・今後の学びのプラン 20% (到達目標③に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 各講義の内容と担当者 第1週 インTRODクシヨン・教員自己紹介・共通テーマの提示 (45分) 第2週 哲学の話 (三宅) + 教員、学生からのコメント・質問 第3週 生物学の話 (野村) + 教員、学生からのコメント・質問 第4週 教育学の話 (蝶) + 教員、学生からのコメント・質問 第5週 地球科学・気象学の話 (寺尾) + 教員、学生からのコメント・質問 第6週 経営学の話 (松岡) + 教員、学生からのコメント・質問 第7週 物理学の話 (高橋) + 教員、学生からのコメント・質問 第8週 全体ディスカッション・まとめ			
【授業及び学習の方法】 第1週にこの授業のテーマを設定します。その後、7人の教員がリレー形式で授業を担当します。毎回の授業では、メインの教員が自分の学問分野および授業のテーマについて話した後、他の教員、学生との対話が行			

われます。授業時間内に課題が設定されることもあるので、積極的に取り組んでください。また各回の終了後に、受講生には振り返りのレポート（評価対象）が課されますので、ノートを取りながら参加するとよいでしょう。第8週は担当教員があつまって振り返りのディスカッションを行います。学生も参加できるような仕組みにしますので、積極的に取り組んでください。

この授業では、口頭あるいは文字を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。

【自学自習のためのアドバイス】

- ① 授業での新しい発見をとりまとめ、ノートし、レポートとして提出する（事後学習）
 - ② 次回取り扱われる学問分野について、教員のアドバイスに基づいて事前に調べてくる（事前学習）
 - ③ 今後の学びのプランを練る（授業開始から考え始め、授業終了時に完成させる）
- ・ 詳細については第一週の授業で説明します。
 - ・ ①②③をあわせて、授業期間中に30時間相当の作業。作業には個人差があるので、この時間数が必須というわけではありません。

【授業形態】

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

購入してもらおう教科書はありません。参考書については各授業で紹介します。

オフィスアワー 全般的な点については、コーディネーターの蝶まで（オフィスアワー：木曜日3校時、研究室は幸町北キャンパス5号館4階）。 個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ この授業は1回生をターゲットとした科目です。
- ・ 定員は100名です。
- ・ この授業では、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。
- ・ いろいろな学問分野が取り扱われますが、前提となる知識は不要です。関心があることが受講資格です。「大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?」「大学の学びは自分にとってどのような意味があるか?」「なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?」そういった疑問をもったみなさん、ぜひ受講してください!

<p>ナンバリングコード BIIAR-bceG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001303)</p> <p>SDGs学入門 Introduction to the sustainable development goals (SDGs)</p> <p>SDGs学入門 Introduction to the sustainable development goals (SDGs)</p>	<p>科目区分 学問への扉</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 学問への扉</p> <p>授業形態 講義</p>	<p>時間割 2023年度 3Q木5</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: bce</p> <p>単位数 1</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 寺尾 徹, 小方 直幸, 神野 幸隆, 河合 史子</p>	<p>関連授業科目</p> <p>履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 講義90分×6.5回+SDGs実践活動90分+自学自習 (準備学習10時間・事後学習20時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>SDGs (Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標)は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにするため、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、その成否が21世紀社会の未来を左右するかもしれない重要な国際目標です。当たり前の「良いこと」であるように見えるこの国際目標ですが、この授業では、あらためてSDGsが必要とされた理由を考えます。背景となっている21世紀社会の危機の特徴。危機を回避するための目標としてSDGsは充分なのか。SDGsを達成することは可能なのか。SDGsを達成するための実際の取り組み。香川大学で行われているSDGsを目指す持続可能性に係る研究や先端技術研究について講義します。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>SDGsの達成が必要とされている理由をより深くつかみ、自分の頭で考えてどのような取り組みが求められているのかを理解して行動できるようになる。また、そのためには文系理系の枠を超えた幅広い分野の理解が必要なことを理解し、大学における学びを自らデザインできるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. SDGsの意義を自分なりに理解し、人にその考えを伝えることができるようになること (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. SDGsの達成に貢献するための大学における学びを自分でデザインできるようになること (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. SDGsの達成のために香川大学や地域で行われている取り組みに参加できるようになること (共通教育スタンダードの「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応)。 			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>毎回の質問タイムに口頭で、あるいはそのあとmoodle等に質問・コメントをすること。よい質問は加点する。教員から出されるワークシートに基づく採点 (到達目標1に対応)。5点×8回 SDGsに関する具体的取り組みとして、「やってみるSDGsレシピ」を課題として数多く出題します。これらの「レシピ」から2つ選んで、それをもとに実践した結果を小レポートに書いて提出してください。(到達目標3に対応) (20点) 期末レポートは以下の通り。 (1) SDGsについてあえて否定的な見解を立ててみる。それに対して自分なりにSDGsの重要性を明らかにする反駁を試みてみる。(到達目標1に対応) (30点) (2) この授業を経て広がった大学での学びの抱負をまとめる (到達目標2に対応)。(10点)</p>			
<p>成績評価の基準</p> <p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画 (予定)】 授業の進行状況や進め方の工夫等により、授業計画を修正する場合があります。 第1週 インTRODクション・「SDGsって何だろう？」 第2週 「地球と生物から見たSDGs」 第3週 「人間と社会から見たSDGs」 第4週 「SDGsの取り組み (イノベーション・技術革新)」</p>			

第5週 「SDGsの取り組み（だれ一人残さない・持続可能な社会とは）」

第6週 「SDGsを根本から考えてみる」

第7週 「やってみるSDGsレシピ」に沿って自分で何かやってみよう

※期間中にたくさんの「レシピ」を提示します。関心に合わせてやってみよう。

第8週 まとめとレポート課題の解説

【授業および学習の方法】

- ・授業は講義形式（パワーポイント資料、冊子類を中心）を基本としますが、受講生の意見をまとめるためのワークシートを使う場合もあります。意見に基づいて意見発表ができる機会を適宜つくり、できる限り「双方向の授業」となるように務めます。なお、授業中に、授業を活性化させる発言や質問があった場合、教員の判断で加点する場合があります。
- ・SDGsに関係があり、自宅等で自分で実施できる課題「やってみるSDGsレシピ」を、第1-6週の授業で数多く提案します。受講生は、ここから選択して何かやってみよう。2つ小レポートを提出して下さい。

【授業形態について】

- ・この科目は全回対面授業を行います。

【自習学習のためのアドバイス】

- ・各回の授業の前にmoodle上の資料やテーマに関する資料等の予習をしておくこととスムーズです（毎回2時間程度）。
- ・各回の授業における講師の問いにこたえて自分なりの発見にもとづくレポートを書くこと（毎回4時間程度）。
- ・授業期間のうちに自分なりのSDGsへの批判と反駁を試み、レポートにまとめてみよう。

教科書・参考書等

- ・特にありません。
- ・適宜資料・プリントを配布します。

オフィスアワー 授業終了後、教室において

主担当教員：terao.toru@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・「やってみるSDGs」の取り組みでは、自宅や地域等学外での活動機会もあります。講師から与えられた諸注意や社会人としての常識を守り、安全に配慮し、節度を持ってこれらの活動を実施してください。これらの点を守る態度を育てることは、本授業の目標とも関係しています。成績に反映することもあります。

教員の実務経験との関連

特に該当しません。

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001304) デザインのすすめ Introduction to Design デザインの思考と表現 Design thinking and Expression	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 井藤 隆志, 大場 晴夫, 石塚 昭彦, 釜床 美也子, 南 政宏	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(30時間)			
授業の概要 プロダクトデザイン、建築デザイン、ビジュアルデザイン、サービスデザインの各専門分野の教員が、その領域の事例から多様なデザインを例に、デザインの背景にある思考と表現を紹介していきます。			
授業の目的 近年のデザインは狭義な意味で造形や色彩を計画・表現するだけのものではなく、我々の暮らしや社会における様々な場面において、問題解決を行ったり、思考・概念を組み立てることとして捉え始めています。本講座では、多様なデザインを通してこれからの社会におけるモノやコトの見方を身につけます。			
到達目標			
①様々な分野におけるデザインを理解し、文化・社会・自然におけるデザインの関りを説明することができる「広範な人文・社会・自然に関する知識」 ②これからの暮らしや社会におけるデザインの意義が説明できる「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」 ③デザインにおける問題解決型思考を自分の学問領域に関係づけて解釈することができる「課題解決のための汎用的スキル」			
成績評価の方法と基準 各回課題レポート70%(全7回:各10%)+最終レポート30% 各課題は到達目標①②③に対応			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス デザインとは? (創造工学部 井藤隆志) 第2回 プロダクトデザイン1 概要 (創造工学部 大場晴夫) 第3回 プロダクトデザイン2 事例紹介 (創造工学部 大場晴夫) 第4回 建築デザイン 概要と事例紹介 (創造工学部 釜床美也子) 第5回 ビジュアルデザイン 概要と事例紹介 (創造工学部 南政宏) 第6回 サービスデザイン1 概要 (創造工学部 石塚昭彦) 第7回 サービスデザイン2 事例紹介 (創造工学部 石塚昭彦) 第8回 まとめ 最終レポート (創造工学部 井藤隆志)			
【授業および学習方法】 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 各回に小課題を提示するのでレポートを提出してください。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業外での学習が可能なように各回で参考文献の提示や資料を配布しますので、各自個別の学習を推奨します。(各回4時間程度の内容)			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。			
オフィスアワー 幸町キャンパス 研究交流棟4階 404室 (井藤) 火・水曜日12:00～13:00			

適宜、メールで事前連絡をしてください

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義には必ず出席し、不明なことは質問してください。

教員の実務経験との関連

メーカー、およびデザイン事務所での実務経験をもとにデザインについて講義を行います。

ナンバリングコード BIIAR-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001305) 自然科学へのいざない An Invitation to the Natural Sciences 自然科学へのいざない	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 田中 直孝, 水田 圭祐, 林 敏浩, 和田 健司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 本授業では、学部1年生を対象とし、幅広い自然科学の重要性、学ぶことの意義や楽しみを認識するだけでなく、あらゆる専門性や社会につながっていることを共に考えていきます。 学生からの質問（その場で促したり、Moodleを利用、ワークシート・質問カード利用など）に対して補足情報や新たな問題提起などに多くの時間を取る構成とし、自然科学から広がる様々な事象に対して、共に考え、1年生の今後の大学活動が豊かになることをねらいとします。			
授業の目的 授業のなかで取り扱う様々な自然科学の話題について、知り・疑問を持ち・共感することで、自然科学への興味や関心をもってもらうことが、本授業の目的です。自分や他の学生が抱いた疑問や気づきを共有することで、科学的な視点を養うことができるようになることも、もう一つの目的です。各自の専門を学ぶ過程や大学生として活動していく中で、自然科学との連関を意識できるようになることを期待しています。 以下に、主に取り上げる話題のキーワードを記します。 (前半) 食料生産, 植物生理・生態学, スマート農業, 農作物の流通経済 (中盤) インフォマティクス, 情報理論, コンピュータ, 認知科学 (後半) 環境と生活を支える化学, 自然科学の光と影, 社会に繋がる自然科学			
到達目標			
1. 自然科学の話題について、知り・疑問を持ち・共感したことを記述（口頭質問）できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 科学的な視点を養うことで「自分の専門性や大学での活動にどのように活かせるか」について、考える習慣が身につく。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準 各回で提示される課題の提出と内容によって評価する。100% (到達目標1および2に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: ガイダンス 水田教員 (農学部) 林教員 (創造工学部) 和田教員 (医学部) 田中教員 (農学部) 第2回: 作物生産科学へのいざない 水田教員 (農学部) 食料生産, 植物生理・生態学, スマート農業, 農作物の流通経済 第3回: 質疑応答重視の時間 水田教員 第4回: 情報科学へのいざない 林教員 (創造工学部) 情報とは何か, 情報をなぜ探究するのか, 情報の何を学ぶべきなのか, インフォマティクス, 情報理論, コンピュータ, 認知科学, 数理・データサイエンス, 情報と社会 第5回: 質疑応答重視の時間 林教員 第6回: 化学研究へのいざない～触媒学を中心として～ 和田教員 (医学部) 環境と生活を支える化学, 自然科学の光と影, 社会に繋がる自然科学			

第7回：質疑応答重視の時間 和田教員

第8回：総合の質疑応答とまとめ

水田教員（農学部）林教員（創造工学部）和田教員（医学部）田中教員（農学部）

【授業及び学習の方法】

授業の各偶数回（2, 4, 6回）では、各自然科学のテーマに関して学習します。

授業中は、何か疑問点やさらに詳しく聞いてみたいことを挙げられるように意識してください。

学生からの質問（Moodleを利用、ワークシート・質問カード利用など適宜指示します。）には、次の各奇数回（3, 5, 7回）で、教員から補足説明があります。質問内容によっては、さらなる情報提供や問題提起、派生した質疑応答なども想定しています。

最後の第8回は、全教員が集まり、様々な視点からの総合的な質疑応答をおこないます。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

特に、奇数回と最終回は、積極的な質疑応答への参加を期待しています。

偶数回で学んだことを復習したり、興味が湧いたことを調べたりし、質問ができるように準備する。（各3時間）

各偶数回後に提示される課題について、調べて作成する。（各3時間）

各奇数回のテーマについて、各自で調べて予習する。（各3時間）

最終回で質疑応答に参加できるように、これまでのテーマについて復習する。（3時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 田中直孝：水曜日15時から16時：農学部 BW棟5階 505-4

林敏浩：金曜日 1時限目：幸町キャンパス研究交流棟 4階教員室

和田健司：金曜日 午後6時～7時 於：医学部講義棟 3 1 6号室 遠隔相談も可能であるが、事前にアポイントメントをとること（wada.kenji@kagawa-u.ac.jpあてにメールで連絡してください）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード BIIAR-baeG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001306) 国境を越えて健康を考える Thinking about health across borders 人々の健康生活	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bae	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 清水 裕子, 芳我 ちより, 西村 亜希子	関連授業科目 看護学 心と体の健康		
	履修推奨科目 看護学 心と体の健康		
学習時間 授業90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標; 以下SDGs) の目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に焦点をあて、世界のすべての人々が差別されることなく「健康」生活を確保するという、ユニバーサルヘルスカバレッジの意義と方法を理解できるよう、各教員の体験を通して、国内外のSDGsとの出会いを提供し、グローバルな視点を持つ体験になるよう、意見交換を行って理解を促進させる。			
授業の目的 この授業は、SDGsの目標3.8を達成するために「すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する」にはどうすればよいのかを考えることを目的とする。この授業を受けることによって、それぞれの置かれた状況や立場から、UHSのために創造的な提案を作成できる。			
到達目標			
1. SDGsの社会的背景や達成度と関連する背景を説明できる (共通教育スタンダードbの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 授業であつかう社会活動事例をもとに、開発途上国を含めたすべての国々の人の「健康な生活」とは何かを説明できる (共通教育スタンダードaの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 長寿社会を享受している日本人や開発途上国を含めた世界の人々の健康格差やそれに伴う生活への影響を理解し、共助のために何が必要かを検討することができる (共通教育スタンダードeの「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 Q末テスト50% (特に到達目標1, 2に対応)、グループ発表30% (特に到達目標3に対応)、小レポート20% (特に到達目標1, 2に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション: 現在の社会動向とSDGsの社会的背景 [講義] (清水) 第2回 「京都町屋の健康対話事業」から人々の伝統的な健康生活を考察する [講義] (西村) 第3回 それぞれの地域における健康生活の工夫について理解する [講義] (西村) 第4回 人々の生命・健康をまもる公衆衛生 [講義] (芳我) 第5回 「ミャンマーへの学生とのスタディーツアー」から人々の健康を考察する [講義] (芳我) 第6回 「池袋路上生活支援」から就労にまつわる日本社会の課題を考察する [講義] (清水) 第7回 「カンボジアへの日本型学校保健室体制のエクスポート活動」から健康格差を考察する [講義] (清水) 第8回 これまでの調査からグループごとに発表し、UHSについて深める [演習] / 試験 (清水)			
【授業及び学習の方法】 授業は講義を中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各セクションで小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。第8回で			

は、それまでのグループで取り上げた課題と解決・解消策について報告を求めます。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2回 MDGs (Millennium Development Goals) からSDGsへの変遷と課題をまとめる。(5時間)

第3回 インタビュー調査(5名程度)を実施し「人々の健康生活の工夫」を考察する。(5時間)

第4-5回 ミャンマーの社会事情を調査し、政治や自然環境が人々の健康に与える影響を調査する(5時間)

第6回 「自立支援法」の社会背景と路上生活者の就労背景を調査する(5時間)

第7回 カンボジアでのジェノサイドの歴史を調査し、人々の健康生活に与える影響をまとめる(5時間)

第8回 調査した課題を整理し、レポートとしてまとめ、個人あるいはグループでの発表資料を作成する(5時間)

教科書・参考書等

教科書は特に必要ありません。授業でのハンドアウトを活用します。

参考図書：

ミルトン・メイヤー著／田村真・向野宜之訳(2002)『ケアの本質-生きることの意味』ゆみる出版。

国際看護研究会編(1999)『国際看護学入門』医学書院。

マーティン・セリグマン著／小林裕子訳(2004)『世界でひとつだけの幸せ』アスペクト。

清水裕子著(2013)『ヒューマンケアと看護学』ナカニシヤ出版。

他、参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日第2時限(10:30~12:00)終了後、教室において。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

感染症等の対応では、オンライン授業参加やオンデマンドを検討することができますのであらかじめお知らせください。

教員の実務経験との関連

担当教員らは看護師、保健師としての国内外での看護保健分野の実務経験を有し、人々のユニバーサル・ヘルス・カバレッジに対応してきました。その経験を分かち合っ国際社会における日本人の役割や行動について考えを深めたい。

ナンバリングコード BIIAR-bcxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001307) アントレプレナーシップ (入門編) Entrepreneurship (Introductory) アントレプレナーシップ (入門編)	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 板谷 和彦, 山本 靖	関連授業科目 アントレプレナーシップ (実践編) 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習と事後学習を合わせて、30時間程度)			
授業の概要 【キーワード】 起業、ベンチャー企業、スタートアップ、イノベーション 今日、新規事業やベンチャー企業の必要性が叫ばれています。それらの担い手をアントレプレナー、アントレプレナーが果たすべき役割・精神性を「アントレプレナーシップ」と言います。アントレプレナーシップは、複雑な営みでもあり単独の専門で解釈することは難しく、経営学や経済学を中心として多くの専門学問分野を駆使して論じられます。こうしたアプローチを学際的と呼びますが、本授業では、アントレプレナーシップそのものの基礎知識だけでなく、アントレプレナーシップをモチーフとして学際的な学問体系とは何かも学びます。理解を深めるためにグループを組んでの演習も実施します。			
授業の目的 今日、社会的にも重要性を増している「アントレプレナーシップ」に関する基礎を学ぶとともに、自ら事例を調べて分析する過程を通して、学問を複合的に組み合わせて論じる学際的な学びや研究の姿勢とは何かを理解することを目的とします。			
到達目標			
① アントレプレナーシップに関する幅広い知識を習得する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会に関する知識」に対応)。 ② アントレプレナーシップを題材として、学部専門課程を進んでいく際の「学際的」な学問の学び方や解決策への活用の仕方を習得する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会に関する知識」に対応)。 ③ 我が国の喫緊の課題である起業や新規事業創出に対する解決策の一步を習得する (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 評価についての配点は、授業への取り組み姿勢が30% (特に到達目標①に対応)、グループ演習を30% (特に到達目標③に対応)、試験を40% (特に到達目標①と②に対応) とします。授業への取り組み姿勢は、的確な質問や良質なコメントなど講義への様々な貢献を適宜加点の対象とします。グループ演習は、最終発表だけでなく、演習の過程も評価の対象となります。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業の方法 : 講義と演習を主体とします。教員と学生がインタラクティブなコミュニケーションをはかれるよう、質問や意見・コメントが積極的になるような講義や演習の進行に種々工夫します。 授業計画 : 授業の基本計画は以下としますが、履修者や進捗状況などによって変更する可能性があります。			
第1回. ガイダンス、アントレプレナーシップとは何か—学際的視点から— 第2回. アントレプレナーシップとイノベーション 第3回. アントレプレナーシップの事例と成立の背景・要因 第4回. アントレプレナーシップの実際—実務経験から学ぶ— 第5回. アントレプレナーシップに関する分析・調査の方法論 第6回. 課題提示とグループ演習 第7回. グループ発表 第8回. グループ発表への講評とまとめ+試験			
この科目は原則として対面授業を行います。			

自学自習のためのアドバイス

自分が一人のアントレプレナーになることを想定して、問題意識を持ちながら各回の予習と復習を行ってください（各回準備と事後に2時間を目安に）。具体的には各回の事柄に関連した事例を自分で調べるようにすると良いでしょう。

教科書・参考書等

教科書（テキスト）は特に指定しません。参考書としては以下があります。
清水洋、「アントレプレナーシップ」、有斐閣

オフィスアワー 希望者は事前に連絡ください。平日の昼間を中心に個別に教員の研究室で設定します。両教員の研究室は幸町南キャンパス（南7号館2階：板谷、南3号館2階：山本）にあります。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

起業やベンチャー企業に関心があれば、事前の特別な知識は必要ありません。

教員の実務経験との関連

主担当する板谷は、技術系企業の中央研究所に勤務していた経験があります。新製品・新規事業創出に関する実務経験をもとに講義を行います。副担当する山本は、商社に勤務していた経験と自ら起業した経験があります。それらの実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード BIIAR-bacG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001308) 世界の言語と文化 Languages and cultures of the World 世界の言語と文化 Languages and cultures of the World	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 2Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 植村 友香子, マクラハン・ジェラディーン, 佐藤 慶太, 三宅 岳史, ポール・バテン, 高橋 尚志	関連授業科目 外国語科目、西洋古典語、言語学 履修推奨科目 英語および選択した初修外国語、古典語、言語学		
学習時間 講義90分×8回+自学自習 (準備学習7.5時間+事後学習22.5時間)			
授業の概要 【キーワード】 世界の多様な言語・文化との出会い 世界のさまざまな地域について、その地域で用いられている多様な言語の構造や特徴にくわえ、背景となっている社会や文化について学び、異文化や未知の言語との出会いへの関心を入りに、諸言語への関心を高めるとともに、文系理系の枠も超えた多様な学問世界とつないでいく。			
授業の目的 異文化や未知の言語との豊かな出会いとはなにかを考察する。香川大学の全学共通教育で現在開講されている言語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)をはじめとする世界の諸言語について、自分が学習している言語を含めて、その特徴、歴史、文化的背景などを学ぶ。その中で、文系理系の枠も超えた、自然や社会、文化への関心が広がる。			
到達目標			
1. 自分が学習している言語や自言語について理解できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 異文化や未知の言語を入りに、関連する自然、社会、文化に関する分野への理解を広げる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 異文化や未知の言語との出会いから、文化の背景にある言語とは何か、さらにその背景にある自然、社会、文化について深く考え、豊かな気づきを得ることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回、到達目標1～3の達成度に対応したレポート課題を設定する。それらの点数を単純合計し、成績を評価する。出席がない場合は原則としてレポート提出の権利を有しないものとする。レポートの未提出や提出遅れが3回以上ある場合は原則として0点とする。締め切りは授業の翌週の月曜日午後5時(月曜日が休日の場合は翌火曜日、提出先は修学支援課の専用レポートボックス)。ただし、教員が個別に締め切り、提出先を設定する場合はそちらが優先される。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 各講義の担当者とテーマは、以下の通り。予定(順序, 担当者, タイトル)は変更となる場合があります。 1) 寺尾 徹 ガイダンス・大学での学びとあなたの世界 2) 植村友香子 フィンランド語は猫のことば? 3) G. マクラハン Culture the 5th Language Skill 4) 佐藤慶太 ヨーロッパ文化の源流—ラテン語の世界 5) 三宅岳史 フランス文化を歩く: 革命からアートまで 6) ポール・バテン ニュージーランドの自然環境保護の現状と課題: 文化的な観点から 7) 高橋尚志 ヨークシャーの暮らし方 8) 寺尾 徹 インド亜大陸北東部の諸民族の言語と文化・まとめ 一部の授業回において、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合もある。授業時間中の発言や、ワークシート、moodleなどを利用した意見表明の機会を積極的に作り、教			

員からのフィードバックも行うことにより、大学での学びへの問題意識を広げる。

関心を幅広く持ち、講義で得た知識や発想をさらに広い範囲で自学し、週末にレポート作成をすること。授業で示される資料や参考書等をよく読み、自らの多様な関心や異文化、未知の言語と接した経験にも照らし合わせ、より広い事柄に触れる自学自習をすすめること。一部の授業回において、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合もある

【自学自習のためのアドバイス】

授業の前に、次回のテーマを念頭に、自分の関心に引き付けてみよう（準備学習1時間）。

授業ではレポート出題があるので、自分の関心がどう広がったか確認しながら課題を完成させよう（事後学習3時間）。

【授業形態】

この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。各回のテーマごとに参考書を紹介する。

オフィスアワー 質問等がある場合は、授業直後ないし世話役教員（寺尾）または個別教員それぞれのオフィスアワーを利用すること。寺尾のオフィスアワー：金曜日10:30-11:30。研究室は幸町北キャンパス1号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取るので欠席しないこと。積極的な学習を期待する。

ナンバリングコード BIIAR-becG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001309) 大学的香川ガイド イ An academic guide to Kagawa 大学的香川ガイド An academic guide to Kagawa	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 1Q木1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bec	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 守田 逸人, 寺尾 徹, 平 篤志	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 香川県は日本で一番小さな県であるが、人とのかかわりの深い里海である瀬戸内海に面しており、単位面積当たりの海岸線の長さでは日本の都道府県で第3位である。多くの島嶼を抱え、海と人のかかわりを語るうえで重要な県である。讃岐山脈をひかえ、ため池の広がる平野と自然も多彩であり、水をめぐる人々の生きる闘いを刻んでいる。讃岐富士や屋島の地形は1400万年前の火山活動と地殻変動を物語る。弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮など日本の歴史に大きな意味を持つ象徴的な人や建造物、古跡も豊富で歴史・文化も豊かである。和三盆や塩田など、讃岐三白(砂糖・綿・塩)から讃岐うどん、希少糖まで、自然と社会の特徴を生かした生産の伝統と近代的な発展も興味深い。日本初の国立公園の一つとして指定された瀬戸内海の魅力に加え、近年は瀬戸内国際芸術祭で注目されて急速に海外からの観光客も惹きつけている香川県を、人文学・社会科学・自然科学の複眼的視点からアカデミックに紹介する。			
授業の目的 香川県のもつ特質を深掘りし、学生とともに再発見していく中で、地域に対する人文学・社会科学・自然科学のそれぞれのアプローチの持つ魅力や面白さに気づく。里海・島嶼・ため池に代表される水文化・弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮・和三盆糖と希少糖・讃岐うどん・美しい讃岐富士・香川用水と水不足・何気ない街角の神社仏閣・芸術祭・レンタサイクルなど、香川県の地域の特質に対する多様な興味関心をとらえて深めるとともに、これまで出会うことのなかった視点からの香川の地域論の可能性に気づくことにより、新たな学問的アプローチの楽しさを発見する。			
到達目標			
1. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力に気づくことができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」及び「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力への興味関心にもとづき、自分で学問的に表現しガイドできるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「地域に関する関心と理解力」及び「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 大学における文化、社会、自然への幅広い学びを計画することができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回の授業に積極的に参加してミニレポートに回答すること(到達目標1・3に対応)。5点×8回。 期末レポートは以下を課題とする。 ○第2回～第7回の講師からそれぞれレポート課題が提示されます。そこから1つ課題を選んで自分なりのレポートにまとめる(到達目標2に対応)。(60点)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画(予定)】 授業の検討状況により、授業計画を修正する場合があります。第1回の授業で授業計画は説明します。 第1回 大学での学びへのイントロダクションとレポート課題の解説 第2回 「海の民、山の民、そして里・町の民」 第3回 「気候から見た香川県ガイド」 第4回 「香川県の島嶼と若者」 第5回 「遍路の社会史」			

第6回 「うどん県の歩き方・めぐり方」

第7回 「香川の海岸線と干潟」

第8回 まとめとレポート課題の解説・大学の学びのひろがりについて

※上記は昨年の内容を記しています。履修登録期間の前に修正する予定です。

【授業および学習の方法】

- ・授業は講義形式（教科書とパワーポイント資料中心）を基本とします。
- ・毎回ミニレポートを課します（moodleの場合も紙の場合もあります）。
- ・毎回期末レポートの課題を1つ提示します。そこから1つ課題を選んで、授業と並行して自分なりのレポートにまとめてください（レポートは、moodleへの提出とします）。
- ・第1週と第8週は、大学における学びの広がりを考えます。自分の専門や将来の希望、興味関心をもとに、自分なりの学びのプランを考えてみましょう。
- ・レポート等の締め切りは守ってください。

【自習学習のためのアドバイス】

- ・毎回の授業の前に、教科書の関連する章の内容を読んで自分なりに理解してくること（2時間程度）。
- ・毎回の授業のあとに、再度教科書の関連する章などを見直して理解を確認すること（2時間程度）。
- ・各回の授業における教員の問いにこたえて、教科書の枠を超えて自分なりの調査や考察に基づく発見をまじえて表現し、オリジナルな期末レポートを書くこと。

教科書・参考書等

「大学的香川県ガイド」昭和堂、2,750円（定価・税込）

香川県のどこに行くにも最高のガイドになると思います。大学時代、その後もぜひ活用してください。

第1回目は教科書がなくでも大丈夫です。教科書は生協にて販売していただきます。

オフィスアワー 授業終了後、教室において。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・地理・歴史好きの学生にとっては、これまでの関心がぐっと広がります。社会科は苦手だった学生にとってもおもしろい授業となります。積極的に受講してください

教員の実務経験との関連

- ・特になし

ナンバリングコード BIIAR-becG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001310) 大学的香川ガイド ロ An academic guide to Kagawa 大学的香川ガイド An academic guide to Kagawa	科目区分 学問への扉	時間割 2023年度 2Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局 : 大教センター DPコード : bec	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 守田 逸人, 寺尾 徹, 平 篤志	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 香川県は日本で一番小さな県であるが、人とのかかわりの深い里海である瀬戸内海に面しており、単位面積当たりの海岸線の長さでは日本の都道府県で第3位である。多くの島嶼を抱え、海と人のかかわりを語るうえで重要な県である。讃岐山脈をひかえ、ため池の広がる平野と自然も多彩であり、水をめぐる人々の生きる闘いを刻んでいる。讃岐富士や屋島の地形は1400万年前の火山活動と地殻変動を物語る。弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮など日本の歴史に大きな意味を持つ象徴的な人や建造物、古跡も豊富で歴史・文化も豊かである。和三盆や塩田など、讃岐三白(砂糖・綿・塩)から讃岐うどん、希少糖まで、自然と社会の特徴を生かした生産の伝統と近代的な発展も興味深い。日本初の国立公園の一つとして指定された瀬戸内海の魅力に加え、近年は瀬戸内国際芸術祭で注目されて急速に海外からの観光客も惹きつけている香川県を、人文学・社会科学・自然科学の複眼的視点からアカデミックに紹介する。			
授業の目的 香川県のもつ特質を深掘りし、学生とともに再発見していく中で、地域に対する人文学・社会科学・自然科学のそれぞれのアプローチの持つ魅力や面白さに気づく。里海・島嶼・ため池に代表される水文化・弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮・和三盆糖と希少糖・讃岐うどん・美しい讃岐富士・香川用水と水不足・何気ない街角の神社仏閣・芸術祭・レンタサイクルなど、香川県の地域の特質に対する多様な興味関心をとらえて深めるとともに、これまで出会うことのなかった視点からの香川の地域論の可能性に気づくことにより、新たな学問的アプローチの楽しさを発見する。			
到達目標			
1. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力に気づくことができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」及び「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力への興味関心にもとづき、自分で学問的に表現しガイドできるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「地域に関する関心と理解力」及び「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 大学における文化、社会、自然への幅広い学びを計画することができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回の授業に積極的に参加してミニレポートに回答すること(到達目標1・3に対応)。5点×8回。 期末レポートは以下を課題とする。 ○第2回～第7回の講師からそれぞれレポート課題が提示されます。そこから1つ課題を選んで自分なりのレポートにまとめる(到達目標2に対応)。(60点)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画(予定)】 授業の検討状況により、授業計画を修正する場合があります。第1回の授業で授業計画は説明します。 第1回 大学での学びへのイントロダクションとレポート課題の解説 第2回 「大地の成り立ちからみた香川の風土」 第3回 「讃岐の港町を歩く」 第4回 「金毘羅参詣と門前町・こんびら歌舞伎」 第5回 「気候からみた香川県ガイド」			

第6回 「讃岐建築の自画像」

第7回 「自転車のまち高松」

第8回 まとめとレポート課題の解説・大学の学びのひろがりについて

※上記は昨年の内容を記しています。履修登録期間の前に修正する予定です。

【授業および学習の方法】

- ・授業は講義形式（教科書とパワーポイント資料中心）を基本とします。
- ・毎回ミニレポートを課します（moodleの場合も紙の場合もあります）。
- ・毎回期末レポートの課題を1つ提示します。そこから1つ課題を選んで、授業と並行して自分なりのレポートにまとめてください（レポートは、moodleへの提出とします）。
- ・第1週と第8週は、大学における学びの広がりを考えます。自分の専門や将来の希望、興味関心をもとに、自分なりの学びのプランを考えてみましょう。
- ・レポート等の締め切りは守ってください。

【自習学習のためのアドバイス】

- ・毎回の授業の前に、教科書の関連する章の内容を読んで自分なりに理解してくること（2時間程度）。
- ・毎回の授業のあとに、再度教科書の関連する章などを見直して理解を確認すること（2時間程度）。
- ・各回の授業における教員の問いにこたえて、教科書の枠を超えて自分なりの調査や考察に基づく発見をまじえて表現し、オリジナルな期末レポートを書くこと。

教科書・参考書等

「大学的香川県ガイド」昭和堂、2,750円（定価・税込）

香川県のどこに行くにも最高のガイドになると思います。大学時代、その後もぜひ活用してください。

第1回目は教科書がなくても大丈夫です。教科書は生協にて販売していただきます。

オフィスアワー 授業終了後、教室において。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・地理・歴史好きの学生にとっては、これまでの関心がぐっと広がります。社会科は苦手だった学生にとってもおもしろい授業となります。積極的に受講してください

教員の実務経験との関連

- ・特になし